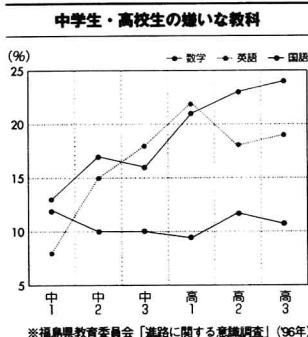


の分析「つまりまきへの対策」がなされている。

「サクシードⅡ・数学」作成のまきめ役であった福島女子高校教頭の杉原重先生は、つなぎ教材作成の意義をこう話す。

「一番よかったのは、中学校の先生方とのネットワークができたことですね。中学校は高校の、高校は中学校の実情を意外と知らないものです。高校の教師の中には、中学校の教科書をも一度も読み込んだことがない方も多いと思います」

「サクシード」作成に当たっては、県内の各地域から数学だけで中学校6名、高校6名の教師が集まった。中・高の教師が2人1組でペアになり、計6組に「関数」や「図形」といった各領域が振り分けられた。各教師は担当の領域について教科書を精読して、生



徒が誤りを起こしやすい部分を洗い出す。その間、ペアになった教師同士は何度も連絡を取り合う。そして各ペアが作成したレポートを基に、今度はメンバー全員で検討を重ね、さらに練り上げていく。議論の過程では、例えば以下のような会話が交わされることしばしばあったと言う。

高校の教師「約分するとき、分子と分母をバラバラに約す生徒が多くて困ります」

中学の教師「中学校では、括弧から約分することはいしていません。共通因数で括弧ということはない。因数分解になって初めて学習することです。1、2年で定着した方法で約分しています」

中高相互の授業公開

実践

参考にできる部分の多い中学校の公開授業

福島県の中・高連携学習指導研究委員会のもう一つの大きな取り組みが、中・高相互の授業公開である。

昨年度の実施は9月。県内を6地区

高校の教師「なるほど。でもそれは高校の授業では困るんです」

こんな風にして、中・高間の共通理解が図られ、「サクシード」はでき上がっていった。

「作業は中・高双方の教師にとってメリットがありました。中学校の教師は、高校ではこのレベルまで教えるから、中学校では最低ここまで習得させなくてはいけない、ということが分かったと思います。一方、高校の教師は中学校で教えているレベルを念頭に置きながら、高校の生徒たちに向き合うことができるようになりました。本当はこういう事業は、一部の教師だけでなくもっと多くの教師が参加できる形になればいいでしょうけどね」

2

るディスカッションが開かれた。

「中学校の授業で驚いたのは、教える方がとても丁寧なこと。様々な教材・教具を使う工夫もしています。一方、高校の授業は板書中心なので、中学校の先生は「あんなに速く進められたのでは、付いてこれない生徒が出てくるのでは」と感じられるようですね。中学校と高校の授業がこんなにも違うというのは、一つの発見でした」(杉先生)

杉先生は最近、中学校を真似て授業で教材・教具を使う機会を増やしたそう。生徒からの評判も上々だと言う。また新しい單元に入るときに、必ず「中学校ではどんな教え方でどこまで教えてもらったか」と聞くようにしている。

「いきなり高校の教科書から始めるのではなく、中学校のおさらいをしてからスタートすると、生徒たちは比較的すんなりと入っていきけるようです」

中・高連携学習指導研究委員会は今年度で終了する予定だが、杉先生は今後も何らかの形で、中学校の教師とのつながりは保ち続けたいと語る。

つながる

中学校と高校